

## 広島県におけるカラスバトの記録

上野吉雄<sup>1)</sup>\*・石井秀雄<sup>2)</sup>・井原庸<sup>3)</sup>・松本明子<sup>3)</sup>・原竜也<sup>3)</sup>・渡辺健三<sup>4)</sup>・畑瀬淳<sup>5)</sup>・梅田加奈子<sup>5)</sup>・  
佐藤周平<sup>5)</sup>・林臨太郎<sup>5)</sup>・奥山秀輝<sup>5)</sup>・平野勝士<sup>6)</sup>・岩崎貞治<sup>6)</sup>・大塚攻<sup>6)</sup>

<sup>1)</sup> 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会・<sup>2)</sup> 広島県立西条農業高等学校・<sup>3)</sup> 広島県環境保健協会・  
<sup>4)</sup> 日本野鳥の会広島県支部・<sup>5)</sup> 広島市安佐動物公園・<sup>6)</sup> 広島大学大学院生物圏科学研究科

### The Record of the occurrence of the Japanese Wood Pigeon *Columba janthina* in Hiroshima Prefecture

Yoshio UENO, Hideo ISHII, Yoh IHARA, Akiko MATSUMOTO, Tatsuya HARA, Kenzo WATANABE, Jun HATASE, Kanako UMEDA,  
Shuhei SATO, Rintaroh HAYASHI, Hideteru OKUYAMA, Katushi HIRANO, Sadaharu IWASAKI and Susumu OHTSUKA

### 報告

カラスバト *Columba janthina* は本州・九州周辺の付属諸島、伊豆諸島、大隅諸島、奄美諸島、沖縄諸島に留鳥として分布し、文化庁により天然記念物として、環境省により準絶滅危惧種に選定され、保護されている(永田 2014)。温暖な常緑広葉樹林に生息し、液果や堅果を採餌する。九州・本州の周辺の小島で繁殖しているため、その生息数、生息状況や生態についての詳細は不明である(永田 2014)。近隣の島根県では隠岐諸島で繁殖しており、絶滅危惧Ⅰ類に選定されている(佐藤 2014)。山口県では光市牛島などで繁殖しており、絶滅危惧Ⅱ類に選定されている(山本・三宅 1994・原田 2018)。愛媛県では松山市小安居島で繁殖しており、絶滅危惧Ⅱ類に選定されている(十亀 2014)。

広島県においては正式なカラスバトの記録はない。筆者らは広島県編「レッドデータブックひろしま」改訂のために設置された専門分科会によるレッドリスト選定候補種の現地調査のため、2009年から県内の島しょ部においてカラスバトの生息を調査してきた。その結果、2017年に呉市の無人島でカラスバトの生息を確認したので報告する。

カラスバトを確認したのは呉市の無人島であるが、本種は希少であり、生息地情報を公表することは保全上好ましくないため島名は伏せて発表する。この島はかつてはミカン畑が広がり人も住んでいた。植生は高木層としてクヌギ *Quercus acutissima*、クスノキ *Cinnamomum camphora*、ハゼノキ *Rhus succedanea*、アカメガシワ *Mallotus japonicus*、ヤマザクラ *Prunus jamasakura*、シロダモ *Neolitsea sericea* などが、低木層としてネムノキ *Albizia julibrissin*、トベラ *Pittosporum tobira*、ヤブツバキ *Camellia japonica*、マサキ *Euonymus japonicus*、マルバアキグミ *Elaeagnus umbellata* var. *rotundifolia*、イヌビワ *Ficus erecta*、メダラ *Aralia elata* var. *canescens* などが、草本層としてツワブキ *Farfugium japonicum*、ヤブマオ *Boehmeria longispica* などが生育している(図版 1-A)。

表 1 に観察記録を示す。これらの観察から、島内には少なくとも 3 つがい以上のカラスバトが生息していることが推察された。今回の調査で、3 月下旬にカラスバトの巣立ち雛のものと思われる糞を確認した。近隣の愛媛県松山市小安居島では 2014 年 3 月に 1 卵の入った巣が確認され、地上に営巣していたという(十亀 2014)。

本調査を行うにあたり、調査にご協力いただいた広島県環境県民局環境課主任専門員の村田博史氏、調査地への船を出していただいた日本山岳会広島支部の中本博氏に心からお礼を申し上げる。

表1 カラスバトの観察記録

2017年4月15日
11:15に北側海岸・中央の谷1（北側海岸の西から谷1～5と呼ぶ）の林内で鳴き声を確認。12月23日
12月23日
13:00に谷3の手前を飛翔する1羽を確認。
2018年3月24日
16:00に谷3の中で1羽が地上に降り、その後、キヅタ <i>Hedera rhombea</i> に止まるのを確認。16:40に1羽を谷3で確認。
17:00に1羽を谷3で確認。
17:03に2羽を谷3で確認。
3月25日
6:00に北側・東よりの林の中で鳴き声を確認。その後、同所で2羽の飛翔を確認。
6:15に谷3から東へ約100m離れた谷4で鳴き声を確認。
6:30に1羽が谷4沿いの木に止まりすぐに飛び去るのを確認。
6:35に1羽が谷4沿いの木に止まりすぐに飛び去るのを確認。
6:58に1羽が谷3のそばを飛翔するのを確認。
7:55から8:00に谷3から西へ約100m離れた谷2のそばの木に止まるのを確認。
8:00に谷4から東へ約200m離れた谷5で鳴き声を確認。
9:00に谷3から1羽が飛び去るのを確認し、同所で糞を確認。この糞は浅い窪みにまとめて排泄されており、巣立ち雛がその窪みにしばらく滞在していたものと判断した（図版1-B・C）。
13:05から13:10に谷5で1羽の飲水を確認。
7月22日
9:04～9:07に谷3の尾根に生育しているハゼノキの核果を採餌する1羽を確認、写真撮影した（図版1-D・E・F）。

## 引用文献

- 原田量介（2018）カラスバト。山口県レッドリスト2018：2。山口県
- 永田尚志（2014）カラスバト。日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類：230。環境省
- 佐藤仁志（2014）カラスバト。改訂しまねレッドデータブック2014 動物編：38。島根県
- 十亀茂樹（2014）カラスバト。愛媛県レッドデータブック2014：1。愛媛県
- 山本健次郎・三宅貞敏（1994）光市牛島におけるカラスバトの生息状況と生態。山口県立山口博物館研究報告 20：1-25



---

A: カラスバトの生息環境	2018年3月25日
B: 巣立ち雛のものと思われる糞	2018年3月25日
C: 巣立ち雛のものと思われる糞	2018年3月25日
D: ハゼノキの核果を採餌するカラスバト	2018年7月22日
E: カラスバト	2018年7月22日
F: 飛翔するカラスバト	2018年7月22日